

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第7回防災部会				
(2) 開催日時	平成30年2月14日(水) 10:00 ~ 12:00				
(3) 開催場所	さぼーとぴあ 集会室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 (部会長：志村 陽子)				<敬称略>
	田邊 俊子	竹内 奈津子	竹内 千代江	岡戸 繁樹	栗田 修平
	蛭子 明子	在原 寛子	富丘 浩之	広瀬 健次郎	篠崎 哲也
	オブザーバー：八尾 隆一・丸山 裕士(蒲田警察署)、 奥島 明彦・入舩 寛樹(大森消防署)、 上原 良太・池田 奈保美(はぎなか園)、 大河内 尚子(うめのき園)、 服部 絢子・高橋 紀子(池上福祉園)				
	区職員：松橋 幸博(久が原福祉園)、田村 克彦(南六郷福祉園)、 高野 耕治(上池台障害者福祉会館)、 長沼 宏幸(災害時医療担当課) 甲斐 康誠・内川 洋一・阿部 幸喜(防災危機管理課)、 澤 健司(障害福祉サービス推進担当課)、 吉田 実(障害福祉課)、 小泉 洋子(障がい者総合サポートセンター)				
事務局：平野 理恵子・関根 あずさ(障害福祉課)					
1 確認・連絡事項					
(1) 出欠者の確認、(2) 書記の確認、(3) 配布資料の確認					
2 蒲田警察署からの情報提供					
3 前回部会及び運営会議の振り返り					
4 議題					
(1) 施設長会へのアンケート結果確認					
今後、防災部会が障がい者の災害対策に取り組むにあたって、まずは各施設の現状を把握すべく、区内の通所施設のネットワーク(施設長会)にアンケートを実施。					
《アンケート結果抜粋》					
○ ヘルプカードについて、5割の施設で所持率100%。全施設で配布・案内を行っている。					
○ 各施設の災害対策について、全施設が発災時の安否確認の重要性を認識しており、緊急時には関係機関へ情報提供することの同意を事前に得た上で、複数の連絡先を把握。					
○ 福祉避難所開設訓練の実施状況について、4割の施設で実施。未実施の施設では、訓練方法が分からないことを理由にあげていた。					

## (2) さぼーとぴあ福祉避難所開設訓練への協力参加

部会委員で受付を通る要配慮者について、事前に設定を検討し、ロールプレイを行った。

### 《ロールプレイ概要》

- ① 防災太郎さんには自閉症を伴う知的障がいがある。避難所に入れず、母の花子さんが呼びかけると、職員が外の落ち着いた場所で受付をしてくれた。
- ② 災害一子さんは車いすで来所。介助者である娘の次子さんには聴覚障がいがある。受付では手話通訳者が対応してくれた。
- ③ 福祉キョウコさんには高次脳機能障がいがある。夫のヒロシさんは高齢の母の所にも介助に行かなくてはいけない。不安な気持ちが払しょくされるような対応が嬉しい。
- ④ 医療的ケア児の父である医療大樹さんは、手技が不慣れ。妻は里帰り出産中で不在のため困っている。人工呼吸器の充電が課題。
- ⑤ 単身その子さん盲導犬と来所。高齢単身で付添人なし。聴力の衰えがあり、分かりやすい大きな声で、状況を含め丁寧に説明してくれると安心できる。
- ⑥ 障がい三郎さんは在宅避難者。福祉避難所を見かけて飛び入りで来所。受付で福祉避難所の説明や心配事を相談できる他の避難所や窓口の案内を受けた。

### 《訓練後の振り返り》

- 人工呼吸器等医療機器の充電について課題あり。
- 手話通訳者が居ない場合を想定した筆談ボードによる受付も訓練しておくが良い。
- 視覚・聴覚に障がいがある方には、周りの状況も含め説明があると安心できる。
- こちらの状況が正しく伝わっているか不安になるので、共感などの対応があると良い。
- 職員が怪我をしては支援にあたれない。ヘルメットの着用を。
- ビブスは班ごとに色分けする等の工夫がされると受入者も職員同士も分かりやすい。
- 受付でデジカメによる顔写真の撮影をする際には、名前も一緒に撮って間違い防止を。
- 受付と本部のトランシーバーでのやり取りも訓練に含めると良い。
- リーダーとなる職員は所定の位置を決めておく指揮がスムーズ。
- 受付票の記入項目が多く滞留してしまう。選択式の記入項目を設けるなど検討を。

## (3) 今年度の振り返り

- 今後、福祉避難所開設訓練を実施していない施設が少しでも着手しやすくなるように、部会として、今回の訓練の課題等を整理し、情報提供できるようにしたい。
- 今年度も防災部会は、障がい当事者団体委員を中心とし、消防署・警察署等から多くのオブザーバー参加をいただき、意見交換と情報交換をしながら活動した。次年度以降も、様々なネットワークと連携し、地域防災に取り組みたい。